

4.5. 土 壤 調 査

1. 試験担当者

本場土壌部長	橋 本 与 良 ほか
北海道支場造林部土壌研究室長	原 田 洸
東北支場育林部長	山 谷 孝 一
関西支場 " 土壌研究室長	河 田 弘
四国支場 " 土壌研究室長	下野園 正
九州支場 " 土壌研究室長	脇 孝 介

2. 試験目的

国有林土壌調査事業の推進およびその技術向上をはかること。また土壌調査成果の多角的利用を計るために調査成果の地域的ならびに全国的とりまとめ方法を検討する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

1. 現地指導ならびに協議

北見、帯広、旭川、札幌、青森、秋田、大阪、高知、熊本

2. 報告書の審査および土壌図印刷の指導報告書の審査は21事業区を終了した、また各営林局で行なう土壌図印刷業務の技術指導および図式の調整、校正の一部を実施した。

3. 分 析

低山帯褐色森林土、亜高山帯土壌約100点の化学分析を行ないその一部を終了した。

4. 母材鑑別

上記材料のうち代表断面試料約60点につき一次、二次鉱物組成の検定を行なった。

5. 森林土壌断面図集(Ⅲ)準備

低山帯褐色森林土5断面、亜熱帯性土壌6断面の蒐集を行なった。

6. 中、小縮尺土壌図編纂の検討

既往成果を用い、1/50万、1/20万土壌図の部分的編纂を行ない、各スケールに適合するリージェントについて検討を加えた。

4. 昭和45年度の試験計画

1. 現地指導および協議

第一次調査実施中の北海道5局、前橋、熊本については重点的に継続実施する、他局については立地級、生産力調査に関する指導および調査成果のとりまとめ、地域別土壌図作成などに対する技術指導と協議を行なう。

2. 報告書の審査は約20～30報告分実施予定

3. 分析、母材鑑別は前年度未了項目およびあらたに約100点について実施予定

4. 森林土壌断面図集(Ⅲ)準備は低山帯褐色森林土、特殊土壌などについて継続蒐集と検討を行なう。

5. 中、小縮尺土壌図編纂の検討については前年度に引続きモデル地域をえらび、リージェントとの関係地域区分などについて検討を行なう。

6. 特殊土壌については、うら日本世域の表層グライ化森林土壌の特性解明に重点をおき検討を開始する。